

令和元年度千葉市図書館の評価（参考資料）

千葉市図書館のサービスの向上を図るため、「千葉市図書館サービスプラン2010」の目標と方針に沿い、令和元年度の図書館評価を示します。

※評価対象：令和元年度、評価実施：令和2年度

千葉市図書館の目標

- 1 地域を支え、暮らしや仕事に役立つ図書館
- 2 生活に潤いを与え、心の豊かさをはぐくむ図書館
- 3 文化や知識を伝え、次世代を育てる図書館

評価

A：計画通りに実施でき、一定の成果があった。

B：課題はあるものの、概ね計画通り実施できた。

C：不十分な点や課題が多く、計画通りに実施できなかった。

	項目数	内部評価		外部評価	
全体について	67	A	57	A	53
		B	8	B	13
		C	2	C	1

【外部評価】

- ・引き続き、図書館サービス向上に向けて評価・点検によりPDCAサイクルを機能させて図書館サービスの向上に努めてもらいたい。

〈方針1〉 図書館サービスの基本である資料の収集・提供機能を拡充します

取組項目		項目数	内部評価		外部評価	
1	(1) 資料の収集、整理、保存及び提供機能の充実	8	A	8	A	6
			B	0	B	2
			C	0	C	0
	(2) 多様な媒体による情報提供のための環境整備	3	A	0	A	0
			B	3	B	3
			C	0	C	0

【外部評価・課題】

- ・合同選定会議や館内選定会などを通して、資料の収集・提供が迅速に行われていることを評価する。

- ・ 利用しやすい図書館環境づくりの一環として、配架の様々な工夫や改善などが行われたことを評価する。
- ・ 移動図書館について貸出冊数が半数近くのステーションで減少している。新型コロナウイルス感染症への対応があったためか巡回数が約30件減少したことも一因と思われるが、読書施設の有無など周辺の状況なども分析して、ステーション設置場所や時間の見直しが必要と考える。
- ・ 受入図書資料数は減少しているため、資料費の確保に努めていただきたい。受入図書資料数のうち、購入資料数は減少しているのに対し、寄贈資料数はH29年度から増加している。寄贈資料に頼ることのない資料収集を望む。寄贈に関しては、図書館の資料収集方針や、主に予約の多い資料・ベストセラーの寄贈を受けていることを広く市民に伝え、貴重な資料費の有効活用に繋げていくことが望まれる。
- ・ 毎年行われていたレファレンス・スキルアップ研修が実施されていない。「レファレンス」の位置づけと対応策を明確にすべきと考える。レファレンスでは利用者の要求を的確に把握し、資料・情報についての豊富な知識を効果的に使える探索技術が必要である。それら技術向上のために研修は必須で、毎年度確実に実施していただきたい。
- ・ みずほハスの花図書館のタブレット端末やデジタルサイネージの活用方法については検討が必要である。
- ・ 有料データベースは、現代の図書館サービスには不可欠であることを財政当局にも理解してもらって予算を確保し、早急な対応をお願いしたい。
- ・ 視聴覚資料の貸出数は減少している。図書館の視聴覚資料の選定は「文化的」「教養的」「時代を反映させた作品」を基準とし、またレンタルビデオ店やダウンロードサイトでの流通が少ないものを積極的に選定することとされている。この選定基準に沿いながら、今後の情報媒体については検討を進めていただきたい。

〈方針2〉 課題を解決するためのサービスに取り組みます

取組項目			項目数	内部評価		外部評価	
2	(1)	レファレンスサービスの充実	4	A	1	A	1
				B	2	B	2
				C	1	C	1
	(2)	だれもが利用しやすい図書館サービスの展開	8	A	6	A	7
				B	2	B	1
				C	0	C	0

【外部評価・課題】

- ・ レファレンスを専用カウンターだけでなく、レファレンス資料の書架付近及び“こどもしつ”にレファレンス用端末を設置して対応したことを評価する。

- ・ 障害者サービスへの組織的な対応を評価したい。
- ・ 障害者サービス研修会が市民講座として実施されたことを評価する。
- ・ 2つ目のブックポストが幕張イオンモールに設置されたことを評価する。
- ・ 図書館未利用者に対してのレファレンスサービスの周知については、まずはレファレンスという言葉で「調べ物相談」など誰にでもわかりやすい言い方にし、図書館が本を借りるだけの場所ではないことを広く市民にアピールしてほしい。図書館ホームページの「レファレンスサービスとは」の説明が実例を挙げていてとてもわかりやすいので、それを公的機関や生涯学習施設などに掲示したり、Facebookなどで発信するなども一案である。
- ・ 図書館ホームページ「キャッチアップ！！"旬"」の「感染症のことについて調べてみよう」は正に旬の情報であったが、多くの人に関心を持つような情報が埋もれていてはもったいないため、ホームページのトップに置くなど見やすい工夫が望まれる。
- ・ 図書館未利用者へのPRとしては、テレビ局や新聞社などマスコミへの頻繁に発信を行い、図書館資料がインターネットで検索できることについても、もっと広報していただきたい。
- ・ コロナウイルスの影響によるビジネス支援関係の資料を揃えてほしい。
- ・ 子育て支援コーナーは、小さくてもよいので全ての地区図書館・分館への設置が望ましく、中央図書館のように乳幼児コーナーの近くにあるとよい。また、そのコーナーについて子育て世代へ情報提供するため、SNSの活用を進めていただきたい。
- ・ 障害者への理解と共存を深めるためにも、小・中学生向けの点字体験などを各館で度々実施してほしい。

〈方針3〉 図書館から積極的に情報を発信します

取組項目			項目数	内部評価		外部評価	
2	(1)	ホームページ等からの情報発信	3	A	2	A	1
				B	1	B	2
				C	0	C	0
	(2)	出会いのある図書館利用の促進	3	A	3	A	3
				B	0	B	0
				C	0	C	0

【外部評価・課題】

- ・ ホームページのアクセス件数は年々大きく増加している。
- ・ 図書館では様々な講座が企画されている。市民のニーズもあるためか歴史や文学が多いが、「美浜区でオリパラ」のような、さらに多様な講座を企画していただきたい。

- ・ さまざまな企画展示が行われており、市民の楽しみにもなっている。各館工夫を凝らした展示が行われていて大いに評価する。展示によっていろいろな本を知ることができ、利用者が幅広い分野の本を手取る手助けになっている。
- ・ ホームページには多くの情報が掲載されているにもかかわらず、使い勝手がよくないため見逃されているものが多い。特にスマートフォンでは、蔵書検索以外は目に入りにくい。特に「お知らせ」は、イベント案内が探しにくく、過去のお知らせは削除されてしまうものがある。過去のお知らせは資料として必要な場合もあるので、ある程度の期間は保存してほしい。今後、ホームページ掲載を望むものは、インターネット上の情報の紹介（例：R2年度の東京子ども図書館読み聞かせ動画サイト）。また、図書館で市民が行う講座や勉強会なども、主催者が希望すれば載るとよいと考える。
- ・ 「図書館だより」は、多くの人に手に取ってもらえるようなデザインや内容を検討してほしい。既定の広報の他にも、新聞社、テレビ局、地域広報誌など各種メディアへ数多く発信し、図書館の魅力を広めてほしい。

〈方針4〉 子どもの読書活動を推進します

取組項目		項目数	内部評価		外部評価	
2	(1) 児童・青少年向けサービスの深化と拡充	7	A	7	A	6
			B	0	B	1
			C	0	C	0
	(2) 学校・家庭・関係機関等との連携、協力	10	A	10	A	9
			B	0	B	1
			C	0	C	0

【外部評価・課題】

- ・ 全館で、子どもへの様々な取組みが行われている。千葉市おすすめブックリスト「よんでみよう」が改訂されたことを評価する。
- ・ YAコーナーでは、中高生向けの新聞コーナーの設置や、一般の書架へ繋がる書架づくりなど、この年代に寄り添った工夫を評価する。
- ・ 子どもの読書への関心を高めるため、全館で多様な企画が継続して実施されており、各館の独自の取り組みを評価する。小学生への朗読や紙芝居の会など新たな取組みもある。
- ・ 16回目となった「子ども読書まつり」は来場者に喜ばれる催しとして定着している。図書館だけでなく、学校、市民団体、地域おはなしボランティア、地元企業などとの連携で、様々なイベントが実施されたことを評価する。

- ・ 「千葉市子ども読書活動推進計画（第3次）」に基づき、目標を立てて事業を推進していることを評価する。
- ・ 学校図書館指導員研修会、千葉市学校図書館研究協議会で学校向け団体貸出の説明をしたり、社会体験研修を受け入れたりしたことは、教員が図書館に対する意識を深める機会となり評価する。
- ・ 「まほうの読書ノート」がデザイン刷新により「どくしょてちょう」となり、簡潔で使いやすくなった。読書は数字だけを追うものではないが、本を手にとることへのきっかけになり、よい取組みである。
- ・ 団体貸出が使いやすくなるように改善を進めていることを評価する。団体貸出の利便性向上のため、ホームページの団体貸出閲覧のID・パスワードの簡略化や、利用時間の見直しなど改善策が検討され、H31年度から実施されるようになったことを評価する。
- ・ 地域おはなしボランティア養成講座が実施され、年13回と時間をかけて丁寧に養成したことを大いに評価する。
- ・ 「ファミリーブックタイム事例集」とイクメンハンドブック掲載の「我が家のファミリーブックタイム」には、図書館職員が厳選した本が紹介されていて、良いものになっている。
- ・ さまざまな子どもの施設への積極的な呼びかけと連携は有意義であり、子ども達に物語の楽しみや人と触れ合う喜びを味わってもらえる機会となっている。併設の関係機関にイベントのPRをしていることを評価する。
- ・ YAコーナーについてtwitterやLINEなどで発信し、中・高生の声にも耳を傾け、中・高校生が来館したくなるような選書や企画を望みたい。
- ・ おはなし会開催回数及び参加者数は減少している。回数は多ければよいというものではないが、参加者が前年19,617人から、9,262人と半減している原因の分析が必要である。
- ・ 児童サービスに精通した職員の存在は、図書館サービスにとって不可欠であり、時間をかけた育成が必要である。まずはどの館にも児童担当の研修を受けた職員を配置することが急務と考える。図書館に依頼されている学校や関係機関のおはなし会については、地域おはなしボランティアに任されているところもあるが、図書館職員も同行してどのように実施されているのか現状を把握し、学校図書館指導員とも話してほしい。

- ・ 児童・生徒の図書館見学や職場体験を積極的に受け入れたことを評価するものの、学校等関連施設と連携事業を行った回数は、昨年度469回から、300回に減少している。市内すべての学校で行われるとよい。引き続き、学校の司書教諭や学校図書館指導員との連携をとっていただきたい。新型コロナウイルス感染症への対応により、R元年度末（R2年3月3日）から市立学校が休校となった。この影響により、令和2年度は授業時間の確保も厳しくなると思われる。図書館見学や訪問おはなし会以外に、学校との連携や支援の方法を考える必要がある。
- ・ 図書館以外で行われる子どもの読書活動推進にかかわる事業との連携・協力の一環として、3歳児健診への地域おはなしボランティア派遣のように、保健福祉センターや社会福祉協議会との連携も必要である。

〈方針5〉 他の図書館や関係機関と連携・協力します

取組項目			項目数	内部評価		外部評価	
2	(1) 図書館間協力の一層の推進		4	A	4	A	4
				B	0	B	0
				C	0	C	0
	(2) 地域の生涯学習施設、公的機関、各種団体等との連携		4	A	4	A	4
				B	0	B	0
				C	0	C	0

【外部評価・課題】

- ・ 千葉市図書館情報ネットワーク協議会という組織があり、地域の図書館が館種を越えて連携・
- ・ 庁内職員への情報提供は前年比増で評価できる。庁内職員への資料・情報提供は行政サービ

〈方針6〉 市民参加と協働による図書館づくりをめざします

取組項目			項目数	内部評価		外部評価	
2	(1) 図書館活動への参加機会の提供		5	A	5	A	5
				B	0	B	0
				C	0	C	0
	(2) 市民との協働による図書館づくり		4	A	3	A	3
				B	0	B	1
				C	1	C	0

【外部評価・課題】

- ・ 大学生司書課程実習の受入を行ったことを評価する。将来を担う人材育成のため、今後も積極的な取組みを継続していただきたい。
- ・ 近隣の飲食店に「子ども読書まつり」に協賛してもらった新たな取組みを評価する。

- ・ 毎年全館における利用者アンケートを実施していること、満足度が高いことは評価できる。職員の方々の努力の賜物と考える。
- ・ 学生ボランティアの受け入れについて、大学生主体の企画を夏休みなどにもっと取り入れてはどうか。
- ・ 「子ども読書まつり担当者会議」に市民団体代表が出席して、計画の段階から一緒にできるようになっている。他団体の会議への参加を検討してはどうか。
- ・ アンケート実施は早めのPRを行い、周知方法も工夫が必要と考える。また、移動図書館車や公民館図書室でも実施してほしい。

〈サービス推進のための経営資源について〉

取組項目		項目数	内部評価		外部評価	
	図書館サービスに欠くことのできない「施設」「資料」「人」の3つの経営資源の充実に努めます	4	A	4	A	4
			B	0	B	0
			C	0	C	0

【外部評価・課題】

- ・ 厳しい財政状況の中の資料費の確保、また外部資金の確保や予算執行にも努力・工夫がみられるが、寄付金や広告収入の状況を利用者（及び市民）に知らせ、関心を寄せてもらう必要がある。一方、募金や寄附が図書資料の充実の一端を担っている現状は認めるが、募金や寄附に頼ることなく、資料費の確保に向けた努力もお願いしたい。
- ・ 千葉県という地域を熟知した文化の継承と発展を担う人材が必要である。正規職員（106名）の司書有資格者率が昨年度27.4%から、20.8%と7名減り、極度に減少していることは大きな問題で、長期的な視点に立った人材育成を望む。まずは管理職に有資格者登用を増員し、職員が司書資格を取りやすい体制を作るなど、継続的に勤務することができる有資格の正職員を増やすこと。そして、図書館のスペシャリストとして、頼れる図書館員を育てる必要がある。会計年度任用職員（前 嘱託職員）の有資格者は94.8%であり、非正規職員に頼る実情がうかがえる。図書館業務に精通した意欲ある人材の育成は、世代交代の今、ますます急務となっている。
- ・ 「千葉県図書館ビジョン2040」の策定過程では、パブリックコメントや図書館協議会で多くの意見が出ていたが、ビジョンへの反映はごくわずかであった。図書館の基本に立ち返ってのビジョンの見直しが必要であり、その際は図書館の在り方を学ぶ等している市民との話し合いを重視していただきたい。令和元年度末から2年度にかけて新型コロナウイルス感染症が流行し、市図書館は長期休館となった時期があった。市民がことさらに知識や情報を必要とする時期にこそ、ビジョンで明示された「知の拠点」は何らかの形で利用できることが必要だったのではないかと考える。